

話題商品



時代の流れを感じさせる商品ばかりです。

IPM関連でモニタリング用品と忌避対策商品がでました。

薬剤としては、40年ぶりに医薬部外品の認可を受けた殺鼠剤がでました。

また皆様に愛用され広いファンをもつカルバメート系不快害虫用殺虫剤も、メーカーを変えて新しく発売されました。

モニタリングの重要性がますます高まる中、ライトトラップ・小巻工用トラップ・ゴキブリ用トラップ・ダニ検査商品とそろいました。どんどん使用して下さい。



VECTOR プラズマONE 12page

ポート
デミ・ダイヤモンド 16page

ポート
ローチモニタークリア 20page

むしむし探偵団 23page

インスペクションミラー 28page

アリニックス 29page

スーパーデスマア 37page

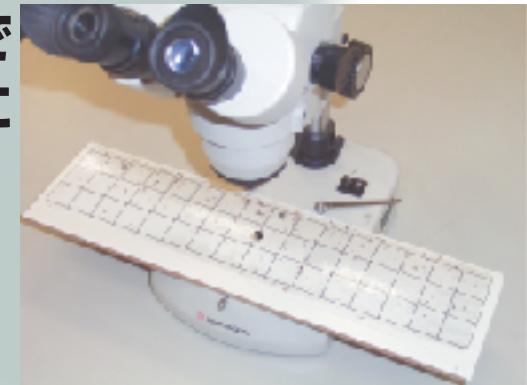
ノビマックス 42page



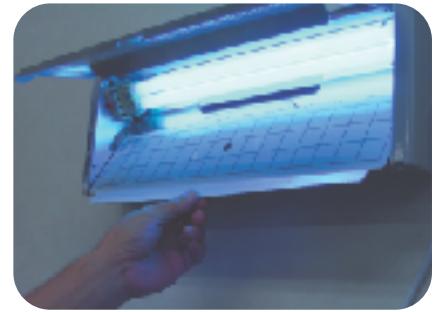
VECTOR プラスmaZone



捕虫紙サイズは
実体顕微鏡で
検査するのに
ちょうどいい
大きさです。



捕虫紙交換は捕虫紙を
引き抜くだけ



ランプ交換は
赤いボタンを押して
ワンタッチ

簡単メンテナンス

食品工場では同定が
しやすい **白** の
捕虫紙



レストランでは虫が
目立たない **黒** の
捕虫紙



2種類の捕虫紙で
お客様のニーズに細かく対応します！

製品仕様	
商品名	プラスmaZone
本体サイズ	w465×D64×H159mm
本体重量	2.4kg
電源	100V 50/60Hz
消費電力	36W高周波電子バラスト
ランプ	36W×1(スタンダードライトバルブ) (ランプ耐用時間 6ヶ月)
捕虫面積	410×100mm1枚

本体	0001942	ランプ(10本)	1942002
捕虫紙・白・30枚入り	1942001	捕虫紙・黒・30枚入り	1942003

紫外線(UV)捕虫機の効果的な取り付け箇所

ウイリアム・ロビンソン博士



紫外線(UV)捕虫機は屋内の飛来昆虫防除に効果的です。最も効果的な箇所に正しく取り付けられるなら、UVライト捕虫機はレストラン、医療施設、食品加工施設などでハエ成虫の防除に大変効果があります。

捕虫機の効果を引き出すもっとも大切な用件は取り付け箇所なのです。取付ける前に考慮しなければならない重要なポイントはつぎの4点です。

- * 床または、天井からの距離
- * 全般的な取り付け箇所と位置および壁面の性質
- * ランプの設置方向（縦か、横か）
- * 捕虫機と飛来昆虫の侵入場所（ドアや玄関）との位置関係

飛来昆虫対策としての捕虫機に関する情報の多くは、イエバエの捕獲能を基にしています。食品加工所など食品関連施設などでイエバエは一般的な飛来害虫ですが、イエバエだけが問題だというわけではありません。クロバエ類、ミバエ類、チョウバエ類もこうした場所で問題になることがあります。この種のハエに関する捕虫機の効果に関するデータはそう多くはありません。一般にクロバエ、ミバエは紫外線に誘引されますが、チョウバエではわずかしか誘引されないと考えられています。

また、捕虫機はスズメバチや食物に発生するある種の甲虫類など他の屋内害虫も捕獲しますが、これは夜間に窓などから入る光が弱まり、捕虫機からの紫外線と競合する光源がなくなったとき、しばしば観察されます。

取り付ける高さ

イエバエは一般に地面近くを飛びます。とくにメスが産卵場所をさが

ランプの設置方向（縦か、横か）

一般に業務用の捕虫機は、取り付けたときにUVランプが床面と水平方向になるように設計されています。これがイエバエを引きつける最も効果的な位置取りです。使用的ランプが長いか短いかについては、捕獲効果にほとんど影響ないと考えられます。捕獲能は紫外線の照度（ワット数）の総量によって左右されます。

高エネルギーランプ・300~400nm（ナノメーター）仕様の捕虫機

イエバエは、320~380nmの範囲の紫外線に引きつけられます。おそらく最も引きつけられるピークは360nmでしょう。イエバエは390nm以上の波長域の紫外線には、ほんの少しかあるいはほとんど誘引されません。

ですから、300~400nmまでの波長域に、出力を集中するように設計された特殊な紫外線ランプを使用する捕虫機は、イエバエの捕獲能に大きな優位性があるといえるでしょう。この種の高エネルギーランプと呼ばれる紫外線ランプは、ハエに対して最高の誘引効果を持っています。（通常の紫外線ランプでは、一般に出力のピーク波長が350nmにあり、余分な波長域が400nmと450nmの間に、また550nm付近にもピークが見られます。）

取り付ける高さ

しているときなどがそうです。捕虫機は通常、床からおよそ1mの高さに取り付けたときが、それより高い位置に取り付けた場合に比べて、より多くのハエを誘引し捕獲します。

ファーストフード店のように、エアコンで室内温度が21°C以下に保たれているところではハエは天井近くに集まります。そこでは空気がより暖かく、イエバエやその他の大型のハエはその付近にとどまる傾向があります。このような施設では、天井近くに捕虫機を設置すると効果的かもしれません。けれどもこの場合は、周囲の他の光源と競合することが多く、効果が減少してしまうこともあります。

取り付け箇所の壁面の性質

ハエは紫外線(UV)の輝度に誘されますから、前述のように照度（ワット数）が高いほどイエバエに対する誘引性が高まります。しかしハエは反射された紫外線、たとえば捕虫機周辺の壁に反射した光にも強く反応します。ですから壁面もしくは壁面近くに取り付けた捕虫機のランプから照射される紫外線の量は、壁面の色やクロスなどの性質が影響します。

白色もしくは淡い色の壁面は紫外線をよく反射しますし、ステンレスのように輝いた材質も同様によく紫外線を反射します。濃い色の壁面は紫外線の誘引力を高めることになります。天井近くに取り付けられた捕虫機の光は、天井のタイル面に紫外線が反射するかもしれません、捕虫機の設置場所としては最適の場所でないことは、すでに述べたとお

りです。

このようなことから、床面方向に紫外線を反射させる機能を持つ捕虫機は、その機能をもたない捕虫機よりもはるかに効力があると言えます。そのわけは捕虫機を取り付けた場所の、壁の色に影響されることがないからです。重要なのは紫外線の光は、水平方向に照射される方が、垂直方向に照射されるときより誘引効果があるということです。ですから、本体の下部に向かって紫外線が反射できるような機能を備える捕虫機なら、床面から約2メートルの位置にも取り付けることができるのです。

クライロン^(注)反射

イエバエは、紫外線ランプや壁面のように、平らな面から照射される紫外線に強く誘引されます。イエバエを使った実験では、紫外線反射機能を備えた捕虫機がより高い捕虫性能を持つことが証明されました。(Pickens and Mills, 1993, J. Med. Entomol. 30)

取り付け箇所周辺の環境

捕虫機は一般に日光の入る窓近くに取り付けると効果が低減します。太陽光に含まれる紫外線の量はごく微量なのですが、大きな窓はいつも明るので、ハエが誘引されやすいのです。

捕虫機を大型の天井照明器具や、

蛍光灯が入っている広告看板の近くに取り付けることも効果を減少させます。なぜなら蛍光灯は少量の紫外線を出しているので、捕虫機のランプと競合して、誘引されるハエの数を減少させてしまうからです。捕虫機を広間の隅や長い廊下の突き当たりなど、やや暗い箇所に取り付けるのが最も効果の出るやり方です。

イエバエ類や他のいくつかの種は夜間に活動します。捕虫機の取り付け位置をきめるときには、非営業時間の環境にも十分な配慮が必要です。この時間帯は天井の照明やファーストフード店の広告看板の照明も消え、周辺環境は概して暗くなっていますから、捕虫機の効果がいっそう高まります。捕虫機は日中と夜間を通じて点灯を続けるべきですが、場所によっては夜の方が競合する光源が少なく、人の行き来も減りますから、より高い効果が期待できるのです。

ドアと入り口付近

レストランや医療施設でも捕虫機が使われます。このような施設では、給食施設や外部からの通路としての入り口や廊下に取り付けられます。建物に侵入するハエを途中で捕まえられる箇所に設置された捕虫機は、建物内のハエの数を減らし、ハエ防除計画全体の一部の役割をします。捕虫機は通路内のドアから離し、入り口との間の中間部分に取り付けると良いでしょう。こうすることにより、

進入してきたハエに新たな環境になじむ時間を与え、次いで捕虫機の紫外線で誘引することができるのです。屋外に取り付けるときは、ドアの上かその周辺のコーナーの暗い箇所がベストです。

捕虫機の数

ハエ防除に必要なUV捕虫機の数を決める正確な公式はありません。一般に効果的な取り付け箇所が多ければ多いほど、ハエの捕獲量は増えます（しかし捕虫機が屋内のハエを100%捕獲することはまれです）。ハエは、紫外線の明るさとハエの種にもますが、2~4m先から捕虫機に誘引されます。誘引には温度、ハエの性別や生理的コンディション（老若、腹のすき具合）など、いくつかの条件があります。食品を取り扱う施設では、ハエの防除を捕虫機だけに頼るのではなく、その他の防除手段も併用するべきです。

(注) クライロン (Krylon(r)) は米国最大の塗料・コーティング材メーカー Sherwin-Williams Company 社の特殊塗料のブランドです。この特殊なクライロン塗料は紫外線を反射する性質を持ち、本来はオランダで風車の羽根に鳥が衝突するのを防ぐ目的で使用されていました。捕虫機の反射板に使用することにより、より高い捕虫効果が期待できます。